

科学技術と社会安全の関係を 考える市民講座2008

東京大学大学院工学系研究科原子力専攻
班目春樹

東京大学大学院工学系研究科

原子力国際専攻

先進原子力エネルギー

核融合工学
先進エネルギー開発
原子炉設計
計算科学

原子力社会工学

核不拡散と
安全保障
科学技術の
社会的受容性

先進レーザー・ビーム科学と 医学物理

放射線科学・加速器科学
新材料開発・放射線医療
医学物理

研究 テーマ

社会受容性

知識獲得過程の研究

広報・共生活動の研究

マスコミ報道の研究

安全情報の体系化

技術倫理

教育システム開発

法工学

原子力法制研究

社会シミュレーション

規制制度の評価

原子力 社会工学

サステナビリティ

導入シナリオ評価

貢献度定量評価

危機管理

緊急時行動シミュレーション

管理システム評価手法

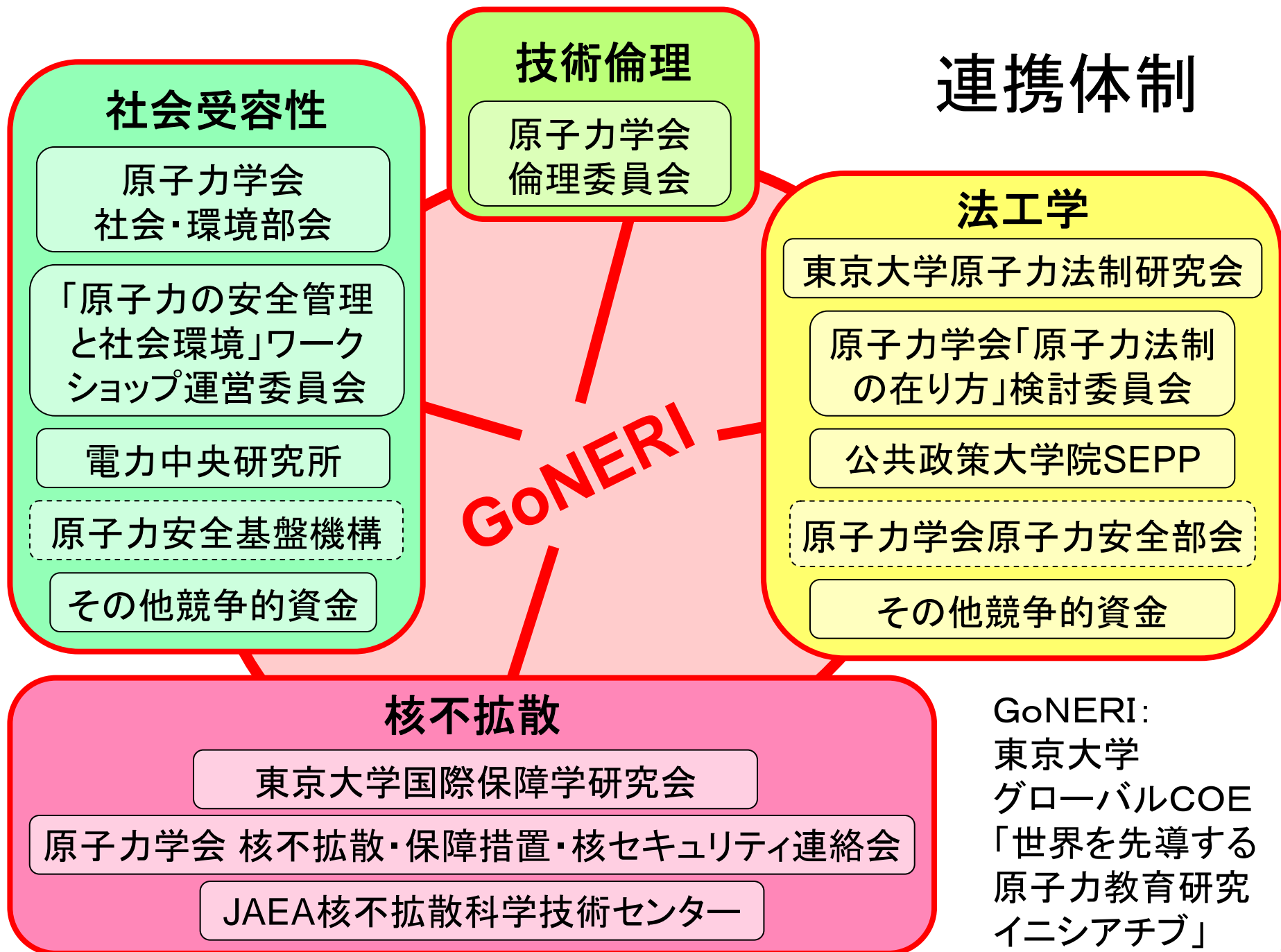
核不拡散

透明性向上システム開発

次世代保障措置技術開発

政策調査と提言

連携体制



GoNERI:
東京大学
グローバルCOE
「世界を先導する
原子力教育研究
イニシアチブ」

GoNERI「社会受容性」分野の連携体制

原子力の安全管理と社会環境
ワークショップ

平成19年3月～

原子力社会論
公開
ワークショップ

平成20年9月～

平成17年10月～

科学技術と
社会安全
の関係
を考える
市民講座

平成19年度まで

原子力安全
基盤機構

平成19年度～
平成23年度

特任准教授・
研究員採用等

品質
管理
学会

原子力学会
ヒューマン
マシン
システム
部会

リスク
コミュニケーション
関連研究

原子力学会
社会・環境部会

電力中央
研究所

グローバルCOEプログラム
世界を先導する原子力教育研究イニシアチブ

科学技術と社会安全の関係を考える 市民講座

1. 技術の安全: 中村浩美・近藤駿介・田原総一郎
2. 技術と国際社会: 堀紘一・金子熊夫・舩添要一
3. 規制行政: 一色賢司・広瀬研吉・小沢遼子
4. 危機管理: 野口和彦・野村保・佐々淳行
5. 技術倫理: 日和佐信子・班目春樹・西部邁
6. 施設立地と環境: 垣迫裕俊・竹内舜哉・北野大

H
17
年
度

3年間はJNES
との共催
(競争的資金:
原子力安全基盤
調査研究)

1. 科学技術とリスク: 平野光将・野口和彦・北村正晴
2. 科学技術と安全保障: 竹内哲夫・江畑謙介・佐々淳行
3. 科学技術と報道: 鳥井弘之・宮田俊範・田原総一郎
4. 科学技術の伝承: 岸本洋一郎・萩原日出男・舩添要一
5. 技術倫理: 西原英晃・米田雅子・猪瀬直樹
6. 科学技術と教育: 有馬朗人・滝川洋二・宮崎哲弥

H
18
年
度

参加定員
200名

社会人学生が
受講しやすい
土曜日に開講

1. 科学技術とエネルギー安全保障: 山名元・藤田豊久・金美齡
2. 科学技術と地球環境: 鈴木達冶郎・近藤洋輝・末吉竹二郎
3. 科学技術と教育: 工藤和彦・大津浩一・宮崎緑
4. 科学技術と法制度: 田邊朋行・首藤俊夫・郷原信郎
5. 科学技術と報道: 竹内哲夫・竹内敬二・高倉吉久
6. 科学技術と社会的合意形成: 北村正晴・新野良子・藤垣裕子

H
19
年
度

科学技術と社会安全の関係を考える 市民講座2008

1. 科学技術と規制: 竹内哲夫・鈴木達治郎・平川秀幸
2. 科学技術と報道: 徳山喜雄・中村政雄・佐田務
3. 科学技術と組織信頼: 北村正晴・小林傳司・堀井秀之
4. 科学技術と地域経済: 角山茂章・白土正一・歌代勝子
5. 科学技術と廃棄物処分: 小川順子・長坂俊成・八木絵香

H
20
年
度

特別講義／市民講座を開講

本年度からGoNERI単独開催

- 学生に社会性を身に付けさせる
(広い視野で原子力を見つめさせる)

- 社会人学生が受講しやすい土曜日に開講

- 市民へのサービス提供  と同時に

- PAの在り方の研究

- PA素材の蓄積

教育実践すなわち研究

科学技術と規制を考える

竹内哲夫(東電OB)・平川秀幸(阪大)・鈴木達治郎(東大・電中研)

講師からのメッセージ

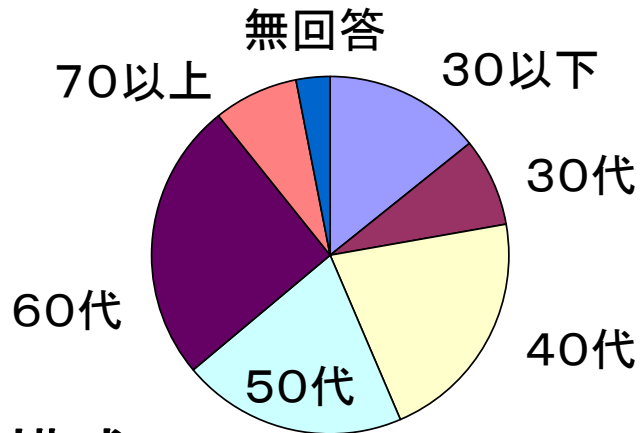
- 「国がきちんと規制しているから国民は安心」という社会を目指したい。解決すべき課題は多いが、科学技術の安全問題を国民に知らせるインタープリターのネットワークを作るのも一方法である。
- そのような役割は是非、団塊の世代に期待したい。
- 規制は科学技術の発展を阻害するものではない。規制こそが社会に好ましい科学技術の発展を促すことを皆が理解して欲しい。

補足

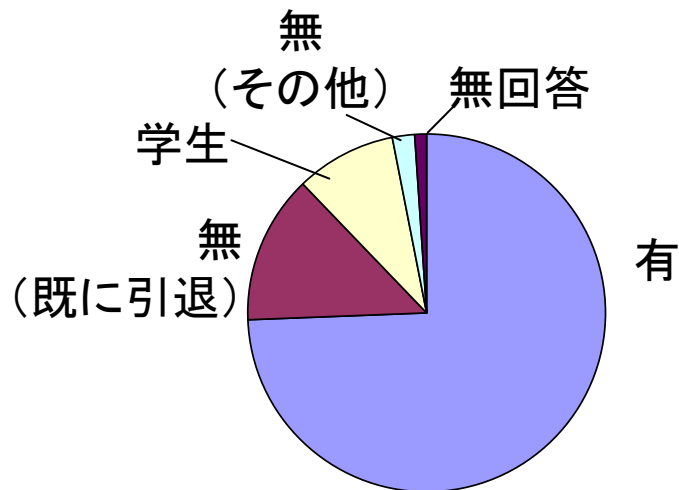
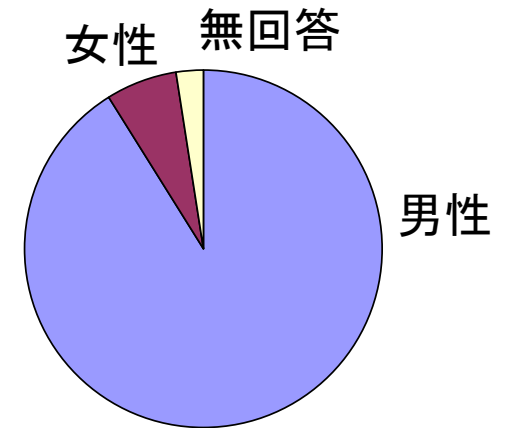
- 規制の機能と目的を当事者も社会ももっと理解して欲しい。その前提としてそれぞれの責任の明確化も必要である。市民社会の成熟も求められている。

参加者(全5回平均)

年齢構成

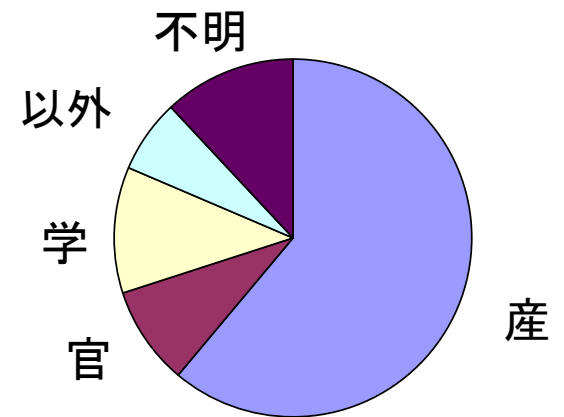


性別



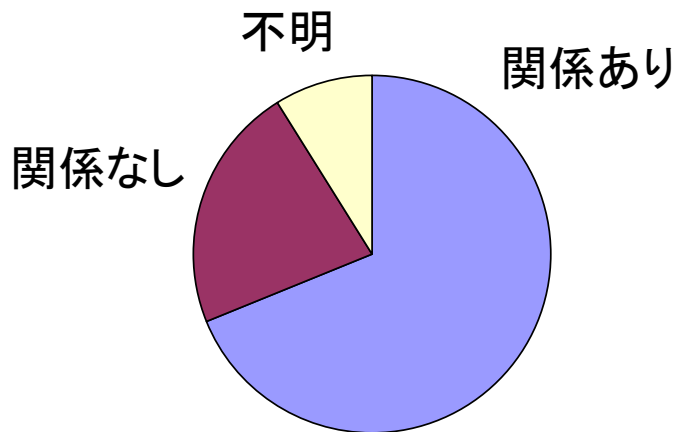
職業

職業分野

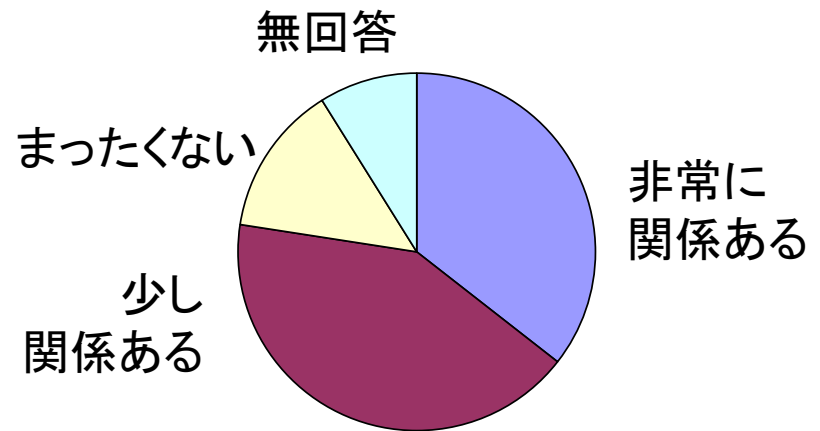


(職業有+引退の内訳)

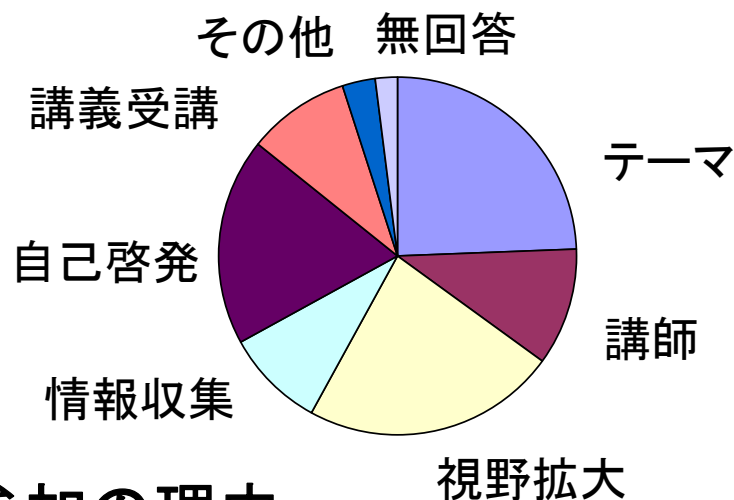
参加者(全5回平均)



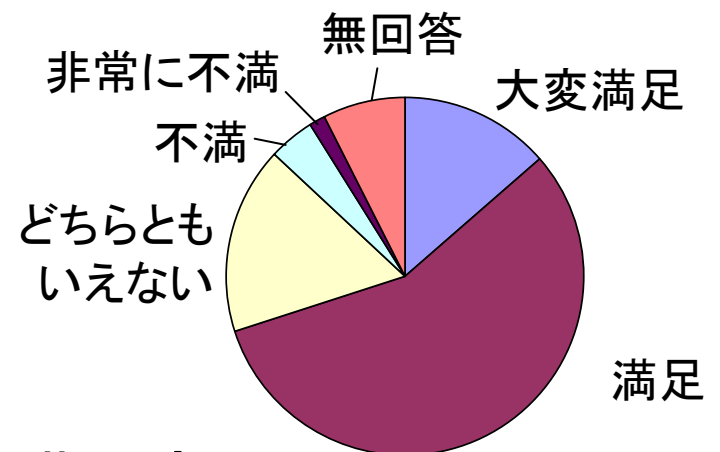
職業と原子力



職業とテーマ



参加の理由



満足度

科学技術と報道を考える

徳山喜雄(朝日)・中村政雄(読売OB)・佐田務(原安委事務局)

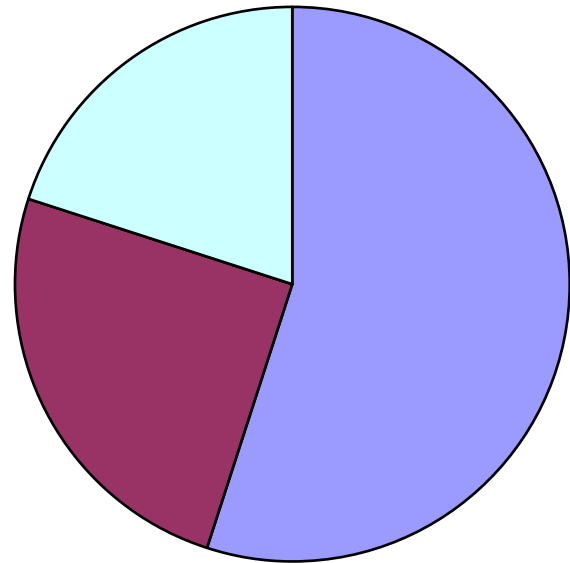
講師からのメッセージ

- マスコミも確信がなかったり風評被害を恐れ報道しないことはあるが、それは罪であると考える。マスコミ関係者はそう考えていることを読み手も理解して欲しい。
- 民主主義では声大きい方が勝つ。マスコミは反対派に味方しているのではなく、反対派の声が大きいのである。賛成ならもっと声を出して欲しい。
- 原子力推進派と反対派の論争は安全問題を争点としているが、背景には中央集権や専門家支配、大量消費文化への疑問などもある。反対派やマスコミ関係者も交え、もっと深い議論が望まれる。

補足

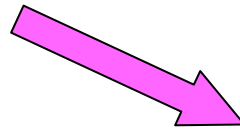
- 批判的な記事が掲載されても、公正に使命を果たしていれば理解される。

「科学技術と報道を考える」を聞いて



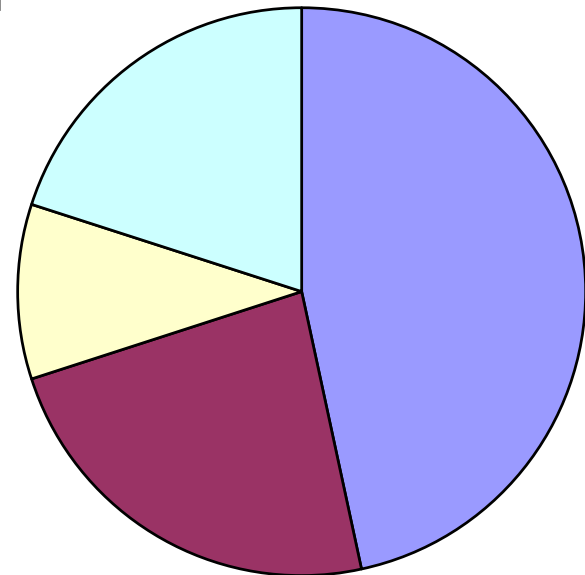
参加前

- 報道関係者側に問題
- 原子力関係者側に問題
- 双方にある
- 無回答



問題があるのはどちらの側か？

参加後



科学技術と組織信頼を考える

小林傳司(阪大)・北村正晴(東北大)・堀井秀之(東大)

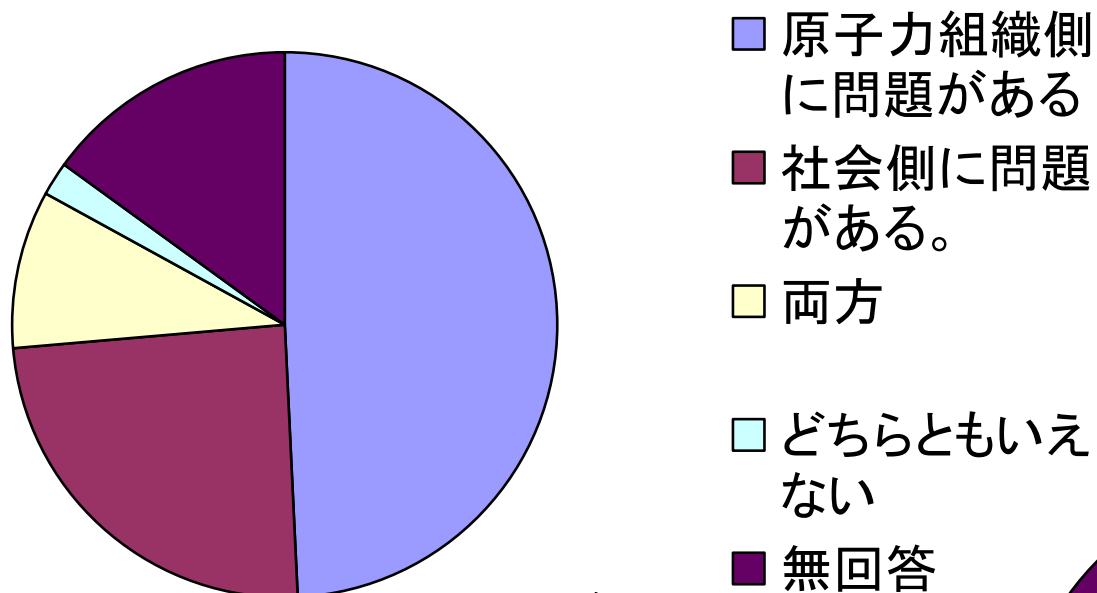
講師からのメッセージ

- 雰囲気には流されないオピニオンリーダーを育てることが大切。パブリックオピニオンは以前と違いエリート層だけでは担いきれない。
- コミュニケーションには、やればやっただけの価値がある。得るものは大きいので、徒労だと思っはいけない。
- 分野を越えた知の活用は重要である。他分野のグッドプラクティスを原子力分野に持ってくるのも一方法である。

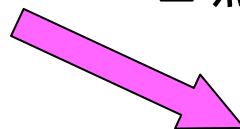
補足

- 専門外情報が周辺ルート処理されて世論形成がなされることから、オピニオンリーダーの役割は大きい。
- 企業が社会からの信頼を価値と認めることでよい循環が生まれる可能性がある。

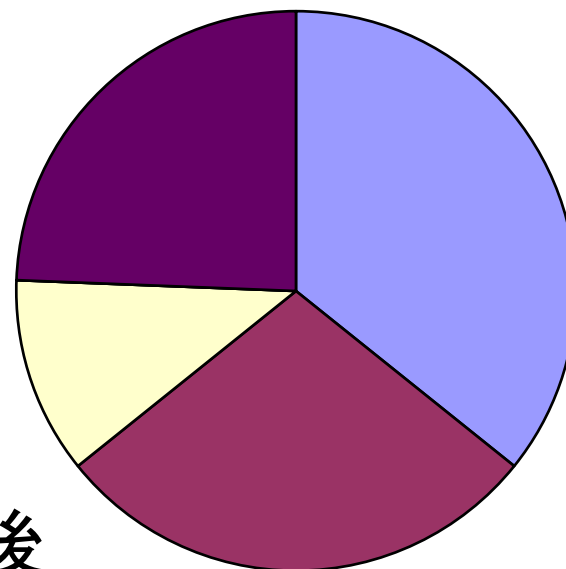
「科学技術と組織信頼を考える」を聞いて



参加前



問題があるのはどちらの側か？



参加後

科学技術と地域経済を考える

白土正一(富岡町)・歌代勝子(白桃の輪)・角山茂章(会津大)

講師からのメッセージ

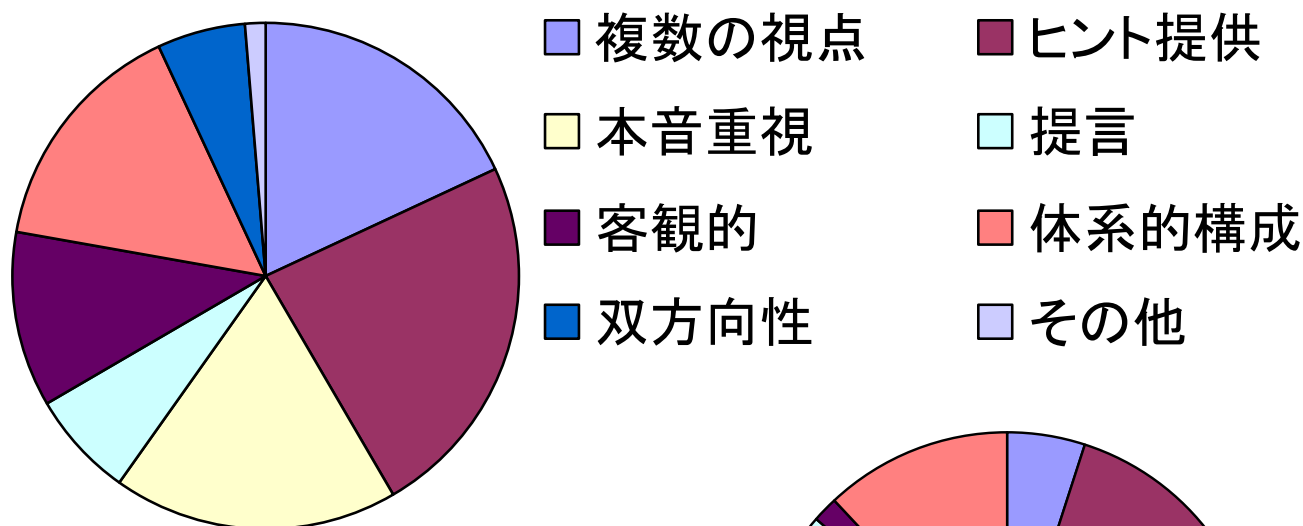
- 事業者には立地地域と本当に共生できるようなよい体制を作って、地域の安全確保に努めてほしい。
- 電気を使うとき、それがどこから来ているのか、話し合う機会を持って欲しい。
- 電源三法交付金がもともとどういう形で徴収され、どのように立地地域に使われているか、もっと透明にしなければいけない。

補足

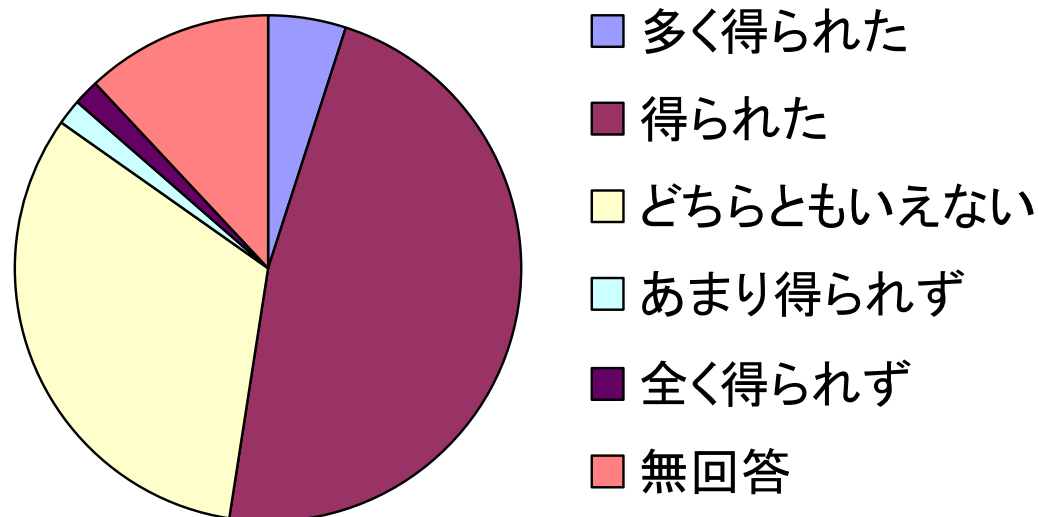
- 使いにくく継続性のない交付金の問題、長期的視点を持たない首長などの問題をはっきりさせた上で、よりよい制度を考えるべきではないか。

「科学技術と地域経済を考える」を聞いて

どこに新しさがあったか？



新しい視点・ヒントは 得られたか？



科学技術と廃棄物処分を考える

小川順子(WIN-Japan)・長坂俊成(防災科研)・八木絵香(阪大)

講師からのメッセージ

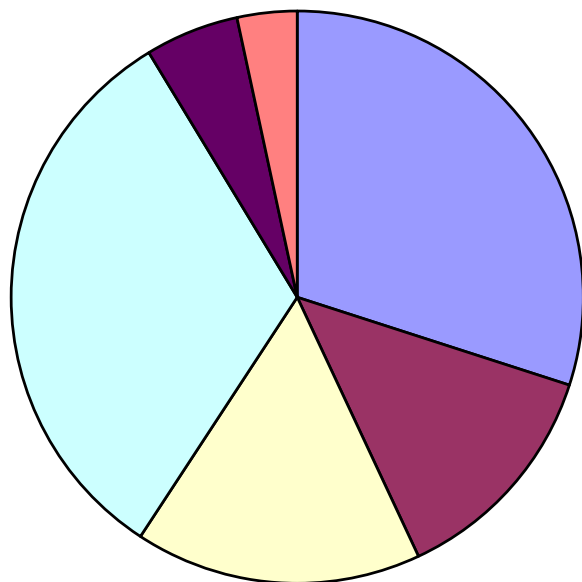
- 高レベル廃棄物処分は若い世代が背負わねばならない問題であり、一緒に考えていきたい。
- 廃棄物以外でも、地域社会の中で議論しなければならないのにタブーとされている問題は多い。タブー視せずオープンに議論する場への参加を心掛けてほしい。
- いろいろなつかけをコミュニケーションに回しても解決しない。コミュニケーションをどうしたらいいかをもっと考えなければいけない。

補足

- 社会に信頼される専門家になるより、まず社会を信頼する専門家にならなければいけない。

「科学技術と廃棄物処分を考える」を聞いて

新たに、またはより強く認識するようになったことは何か？



- 価値観やライフスタイルにより結果が異なる
- 専門家の持つ市民像は実態と乖離がある
- 専門家が市民を理解し信頼する必要がある
- コミュニケーションにおいて、伝えることより文脈を理解することが重要
- その他
- 変化なし

結びに代えて

コーディネータの印象に最も残ったこと

- 一般の人が安全性を十分理解すれば受け入れてもらえるというのは幻想に過ぎない。
 - 皆忙しいし、理解しなければならない問題は無限にある。
 - 当事者を信頼できれば内容を理解できなくても受け入れる。
- 一般の人が議論したいのは安全性ではなく決定のプロセスや制度のほうである。
 - 制度に関しては誰しもある程度の発言ができる。
 - 制度は決定済、議論対象外とするのでは信頼されない。
- 少数エリートのオピニオンリーダーだけでなく多くのリーダーが育っている社会が健全な社会である。
 - リーダー育成の場として東大の市民講座も一定の役割を果たしている。
- 対話集会は大切だが、効果を調べ改革する努力も重要である。